

# 正月の胡瓜はどうして出来るか

東京女高師助教諭 大 岩 金

正月お刺身等のつまとして山葵と席を共にし、或はサラダやサンドウキツチなどに使はれます胡瓜はどんな具合にして食膳に現はれますか。その一通りの生ひ立を調べてみますのも全々無意味なものでもあるまいかと思ひまして、又本年も本法を述べまして、我田に引水させて戴く事に致します。

扱て正月の濃厚な御馳走と共に食べ合せまして皆様の味覺に爽な味はひのある胡瓜の中には小笠原、八丈、千葉、静岡（伊豆）等から上京するものもありますが、それ等大部分は晩夏から初秋にかけて播種し比較的人工を加へる事が少なく、天與

の暖氣に育てられたものが多い様であります、こゝに引水しやうとします胡瓜はその雪や氷を外に専ら人工を加へまして、蝶よ、花よと育てあげた胡瓜の生ひ立を申し述べますのでありますからブルジウアの家庭に育つ生ひ立史であります。此のブルジウアの育て方を私共の方では促成栽培と申すのであります。

## 促成栽培の設備に依る種類

促成栽培と申しましたも百日かかつて成熟すべきものを五十日とか六十日で完熟させると云ふ様な栽培に要する時間短縮を目的とするものではなく、夏に成熟すべき胡瓜を冬に食べる様に栽培す

る方法のことでありまして、文明の進歩につれて食物に對する嗜好向上の結果、珍果、珍菜を求め世の趨勢に依つて案出された方法であります。従つて小脂大の胡瓜一本十六錢位もするのを喜んで買食する次第であります。

さてその方法を大別致しまして二種類とします。

### 一、冷床

周圍を木材、煉瓦、コンクリート等で圍み上部を油障子、油布、或は硝子障子等で覆つた室を造り單に太陽の光線の力のみを利用して、伊豆とか房州地方の様な暖地に利用されて普通冷床と呼ぶものがこれであります。冷床と申しまして一口に冷笑してはいけません。此の種の床も相當廣く用ひられるのであります。

### 二温床

地上の装置は毫も前者と異なつては居りません

が溫度を如へる方法に相違があるのであります。

さうしてその熱源に種々あるので其の熱源の種類に依りまして装置は違ふ理であります。即ち鐵管を設置しまして蒸氣を通じ、温泉地では此の水を利用して溫水を通じ、又は煙道を設けて熱氣を通する杯ありますが近代歐洲では電氣力を利用したのもあるさうであります。尙釀熱物を利用する方法もあります。次に稍詳述しやうと思ひますのは此の釀熱物を利用する促成栽培であります。

### 温床の位置及び構造

温床の位置即ち促成栽培の最も重要な點は寒風を防ぐに充分な場所で日照の充分な位置でありまして、なるべく東西に長いのがよいのであります。がさう理想的の場所のみはありませんが其の際は又それ相應に寒風を防ぎ日照を充分にする様な設備をすればよいのであります。郊外の砂村附近或は中野等に散策なさいました時、藁造りの高い壁

或は澤の鶴、白鷹等と書いた酒樽用の筵で造られた垣を見うけることがおありになりませう。さうした場所の内をのぞきますとそこには短冊形をした多数の框がみられませう。

構造と申しまして特に改めて申す程の事もありませんが形は大體に於て短冊形が用ひられて居ります。その大きさは一般に四尺に二間で東西に長く造り、南側は高さ八寸北側は一尺五寸位の框を造ります。その框の上には諸種の硝子が置かれて居ります。近頃硝子障子の代りに「ヒログラス」といふ金網の細目に「セルロイド」様のものを張つたものがあります。これは硝子の様に紫外光線をさへぎることがないので植物の生育上大變都合がよいといはれて居ります。さうして北側を南側よりも高くする理由は太陽光線を充分に受ける様にする目的であります。

又深さ、形等が醸熱材料の種類及び材料の使用

量並に行ふ時の季節等に依りまして大變相違があるものであります。それで各々實驗家は夫々の體験に依りまして最も經濟的に多く收益を擧げる様に努力されて居りますので、的確には申されませんが大體を申し上げますと、床の中央は高く周圍は低く恰も蒲鉾形に造りまして中央の部分で一尺乃至二尺五寸位を普通と致します。

その目的は床内の溫度全部を均等に保たせる爲であります。即ち中央は周圍の發熱材料の爲に溫度は充分保つ事が出來ます理であります。周圍は直接外部の土壤に接します爲、溫度は中央部と同量の材料では低下する理になりますから此缺點を補ふために特に周圍は中央より多量の醸熱材料を置く必要を生じますから深く掘るのであります。南側は框の爲に日光の直射を受けませんからこの部は特に他の周圍の部分よりも深く掘る必要があります。そして此の床孔の底は充分固くして

おくのであります。

## 醸熱材料

そこで右に述べました様に出来上りました  
 框及び硝子障子並びに床孔を活動させます。材料  
 が醸熱材料であります。その材料の種類が又色々  
 あるのでありまして各々一得一失があります爲、  
 地方々々で最も經濟的なものを利用する様であり  
 ますがなるべく特殊なものは除きまして極く一般  
 的のものを舉げてみますと

### 一、馬糞

厩肥は先づ一般に多少なり用ひられて居るもの  
 であります。然し温度は高くなる材料であります  
 が永く続きません爲に單獨には使用しない様であ  
 りますと申しますことは、他の醸熱材料と共に混  
 用するといふのであります。この材料は兵舎、特  
 に騎兵或は輜重兵と云つた様な兵舎の附近では多  
 量に得られて便利なものでありませう。

### 二、鶏糞

これは自家に養鶏等される家庭では利用されて  
 重寶なものであります。高温を發しますが永續さ  
 せるにはあまり好ましくないさうであります。

### 三、草木の葉

藁屑は一般に用ひられるものであります。その  
 他乾草、潤葉樹の落葉等であります。櫟の葉は温  
 床を造るに相當重要なものであります。是等はあ  
 まり高温は發しませんが變化が少なく持続性のあ  
 るものでありますから前記のものと併用するには  
 重要なものであります。

### 四、農産製造の殘搾

米糠、これは高温を出しますが持続しないもの  
 でありますから他のものと混用致します。

甘藷粕、千葉縣地方ではこれを多く得られま  
 すので利用されることも多いさうであります。高  
 温を發して尙持続性のあるものであるさうであり

ます。

綿屑、是は岡山縣附近では相當多量に使用されて居るもののやうであります。これも高温で持續性のある結構なものであります。以上は特殊な地方にのみ得られる材料であります。

## 五、その他

蒲、菜、塵芥等あります。前者は水郷に於て多量に得られ、後者は多く都會附近 求められるものであります。尙人糞尿も必要でありますし其の他種々何でも用ひられるものは多種多様でありませうが要するに安價に求められるもの、高温を持續的に發すること、容積のあまり大きくないこと等がその重要な點でありましてその要件になつて居れば植物に害を與へないものは何でも利用出来る理であります。

そこで胡瓜を作りますにどの位の温度が入用なのかと申しますと約二十三度を普通とされて居り

ます。

## 踏み込み

以上床孔が出来發熱材料が集まりましたなら、これをどうして發熱させて胡瓜（胡瓜には限りませんが）を作るかといふ問題に逢着するのであります。そこで床孔に發熱材料を入れるといふ仕事をせねばなりません。これを踏み込みと稱するのであります。

先づ孔底には薄く粗大な材料をおきまして排水の便を計るのであります。次に豫て準備しておきました釀熱材料を容れるのであります。この作業こそ實に促成栽培の成否の分岐點であるのであります。それは恰も釀造家の仕込み同様のものでもあります。酒を造らうとして全部を他の酵素のために烏有に歸せしめるといふ運命を生ずるといつた様な作業なのであります。

そこで釀熱材料は出来る限り相互に混和させ

る必要があるのであります。それには豫め各材料を混合しておいて後孔内に容れるのも便利でありませう。さうしてこの混合材料を少量宛孔内に投

じて好く踏み踏んでは投じまして所要の厚さに達して止めるのであります。(所要の厚さは七寸乃至一尺二寸)この際材料が乾燥して居ります時には稀釋した人糞尿等を少量宛注ぎながら踏み込む

のもよいさうであります。踏み込むと申すのは人の足で踏み込むのでありますから一寸こゝで我田引水上胡瓜一本の價格を考へていただく必要はないかと思ひます。

餘談はさておき踏み込みの際注意致しませんと中央は密に孔邊は疎になり勝であります。是は温床内の溫度を不均にさせる虞があります。又踏み込みは密にすぎますと孔が深く狭い場合に起りますやうに溫度は容易に出ませんし疎に失しますと發熱は速でありますして高温になります。が持続性

がありませんのみならず床面が低落するといふ始末になります。

醸熟物の上部には床一面に膨軟多孔の材料を敷き床熱の分配を平等にします。それには木葉等が目的に叶ひます。

踏み込みが終りましたら二日間はず障子をおき日中は日光を通じ、夜間は被覆物において保温しました後、發熱材料の上へ土をおくのであります。この土は前以つて造つておく必要のあるものであります。普通植土と申すものであります。

植土は人工を以つて作物に適するやうに造るものであります。さうして前回の栽培に使用した作物と次回に栽培する作物は交換される必要があるのであります。例へば前回茄子に使用した植土は次回は胡瓜に使用するといった具合にするのであります。そこで植土を造る配合の割合は色々ありませうが

風化した肥沃の粘土

五分

細砂土

一分

堆肥

四分

位の割合のもの混合土であります。これを一定の場所をよく腐熟させて混合したものであります。この土を發熱材料の上へ四五寸位の厚さに平におくのであります。

以上述べましたやうに温床を造りますには相當大きな努力を要します。さうしてこの床へ外で造つておいた苗を植ゑ付けましてから後の温床の管理に就きましては不斷の注意と、老練な技術を要するものであります故、ここにぐどく申し上げましても無味の上に乾燥の上塗りをする事をおそれますので中止致しますから尙詳細の研究を御希望の方は最後にあげます様な参考書によられますことを願ひ致します。

右で促成栽培用の温床に就て大體を述べまし

たそこで胡瓜は何月頃播種したものが正月頃に皆様の食膳に上るかと申しますに、先づ十月中旬であります。温床に定植されますのは十二月上旬のものが正月初め頃から約二十日間位採出出来るのであります。

### 胡瓜の定植と種類

温床に植ゑられる胡瓜の苗は二三回移植されたもので四五枚の葉を生じたものを定植するのであります。その期間は大凡播種後五十日位を要するのであります。苗を温床に定植致しますには前述の床を造つて五六日間を経た後温度が一定してからであります。温床を造つた直後は床内の温度は一定しないのであります。

胡瓜の種類は節成種がよいのであります。即ち早生であることと矮性のこと、而も優良種で需要の多いものといつた要件を必要と致します。

播種後九十日位で結果しますから朝又は午後

採收するのであります。

温床内では特に病蟲害に罹り易いものでありますから時に三斗式ボルドー液とか除蟲菊加用石鹼合劑を撒布してやります。

大變粗末な申し上げやうで充分の御理解はないかと考へますが正月頃出て參ります胡瓜が、どんな努力で出来るかは大體おわかりかとも思ひま

す。自ら手を下して促成栽培をしてみやうとお考

への方は参考書は色々ありますから（農學博士恩田鐵彌氏、喜田茂一郎氏共著實驗蔬菜不時栽培法東京博文館藏版等）それに依つて充分な智識を得られるなり實地（砂村附近）等についておとり調べになる事を希望致します。

新年にあたりて

年と共に讀者諸君の御高誼を感謝します

日本幼稚園協會一同